



# しっていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会  
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100  
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp  
No.73 2010年4月  
会報は皆さんの会費によって作られています。  
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

## フッ化物で子宮がん？

沖縄県は戦後、米軍の占領下におかれていた時期に、市町村の水道水にフッ素を添加されたという経緯があります。理学博士の遠山英一さんは、水道水にフッ素を添加していた時代とその後データをもとに、水道水にフッ素を添加した地域に子宮がん死亡率が高いことを明らかにしました。1996年に発表したこの論文が今回、全米科学アカデミーの米国学術研究評議会の報告書で紹介されたのです。遠山さんは「水道水へのフッ化物の注入は重大な問題がある」と指摘しています。

沖縄以外でも水道水にフッ素が加えられたことは過去にあります。すべて中断され再開されていません。しかし、現在ほとんどの歯みがき剤にフッ素が入っているのは周知の通り。フッ素は、わざわざ添加しなくても食品や空気中にもあるので、私たちが実際に摂取しているフッ素の量は、意外に多いのです。カルシウムが乏しい食事は、体内のフッ素の蓄積を増加させるといいます。

WHO では、6歳未満の子どもに対し、フッ素洗口を禁止していますが、日本ではフッ素洗口を幼稚園・小中学校で実施しようとしています。さらには、「水道水の中に入れましょう」という運動が進んでいます。フッ素を「塩と同じで、使う量さえ守れば安全だ」と言っている人もいますが、誰にも有無を言わず摂取させてしまうのは問題です。国が無理やり押し進めるものには注意が必要です。(フッ素記事会報61、62号参照)

## 人々を傷つける化学兵器

### イラク、米軍との激戦地で異常児多発

イラクのファルージャで、出生異常が相次いでいることを英 BBC テレビが報じました。ファルージャでは1日2~3例の出生異常があり、主に化学物質や放射線が原因と見られる通常の15倍もの障がい児や小児ガンの子どもを治療しているといっています。医師らは、米軍が使用した兵器(劣化ウラン弾や白リン弾など)が原因と見ていますが、もちろん米国は認めていません。

北アリゾナ大学のスターズ博士によると、「人が劣化ウラン弾の粉塵を吸い込んだり、粉塵に汚染された水を飲んだりしたら放射線の有無に関係なく、ウランそのものの特性として人の細胞を突然変異させて DNA コードを書き換えてしまう。そのため、吸い込んだ本人はガンや白血病を発症し、その人から生まれた子どもにも異常が発生する」というのです。アメリカは世界中で残忍な兵器を使用し続けています。ノルウェーのオスロ・プロセスと呼ばれるクラスター爆弾の禁止条約が今年8月に発効しますが、アメリカはこれにも批准していません。

### —沖縄が危ない！！—



以前、沖縄で米軍によるクラスター爆弾の実弾演習が問題になりました。劣化ウラン弾についても、97年の沖縄タイムスで、劣化ウラン弾が、久米島に近い鳥島射撃場に1520発も撃ち込まれていたと報じています。00年には、西原町で米軍払い下げ品取り扱い業者の物資置き場から、劣化ウラン砲弾の葉きょうが473発も発見されています。03年には、川口外務大臣(当時)が国会で「劣化ウラン弾の人体及び環境に対する影響はほとんどない」と呆れた答弁をしています。06年、安倍官房長官(当時)が米空軍嘉手納基地に約40万発の劣化ウラン砲弾の持ち込みを発表し、現在も保管しているといっています。このように沖縄は、住民の心も体も環境も傷つけられているのです。

沖縄の基地問題一。このような基地を日本国内に置くこと自体がおかしいと思いませんか。

【参考資料】フッ素毒警告ネットワーク 倉塚かおりのHP 共同通信 世田谷通信 時事通信 かずの歯科 化学物質問題市民研究会 北海道新聞 朝日新聞 清水産婦人科他HP ヘルスクリックHP なぜ村は集団検診をやめたか/網野皓之 日消連リポート1457 老人保健福祉ジャーナル 1998

## 胎児の超音波検査は安全か

4年ほど前に、胎児の超音波(エコー)検査は、胎児の脳の発達に影響を及ぼす恐れがあるという研究結果を、米エール大医学部のチームが発表しています。それによると、母親のマウスが合計30分以上超音波を浴びた場合、胎児の脳の中で、正常に配置されない神経細胞が少数ながら現れ、影響を受けたとみられる神経細胞の数は、超音波を浴びた時間が長いほど多くなったといっています。研究チームは、「マウス実験がそのまま人間に当てはまるとは限らないが、人間の脳の発達は複雑で、細胞の数も多いため、異常が出る確率が高くなるという考え方もある」と話しています。産科での超音波検査は、胎児の月齢や異常の有無を調べるのが目的ですが、「記念に」と撮影を望む妊婦も多く、米国では自宅に器械を購入した人もいたそうです。チームは「医学上の目的で行われる超音波検査は中止すべきではないが、さらに研究が進むまで、妊婦が不必要な超音波を浴びることは避けた方がいいだろう」と注意を喚起しています。



日本の産科医によると、このエコー写真は『売り』のひとつだとか。最近ではカラーや4D画像、動画もあり、ビデオやCDとして退院時にプレゼントするという病院もあります。でも、何事もやり過ぎは禁物。医療者も母親も慎重に！ちなみに、胎児エコーでは超音波の出力を通常よりも下げていることが原則となっているそうです。

## 北海道 泊原発

### 作業員が定期検査中に被ばく！

北海道電力は、定期検査中の泊原発(後志管内泊村)1号機で50代の男性作業員が微量の放射性物質を体内に取り込んだと発表しました。被ばく量は0,09ミリシーベルト(暫定値)で、北電は健康への問題や外部への放射能漏れはないと説明。作業員の男性は下請け会社の社員で、ほかの作業員7人と空調ダクトを取り付ける作業を行っていましたが、昼休みに放射線管理区域から出る際の検査で、被ばくが確認されたそうです。作業場所はふだん放射線汚染がないため、マスクは未着用。「原因は調査中だが、放射性物質が付いたチリなどを吸い込んだ可能性がある」とのことです。



## ちょっと考えよう

ビタミン信仰・抗生物質信仰・解熱剤信仰・注射信仰・検査信仰・大病院信仰。  
延命至上主義的医学の代表である検診は、人の心理に付け入って市民権を得ているが……。

医師の網野皓之さんは、集団検診は非科学的で有効性がない。え、集団検診による健康幻想がいかにも地域の福祉軽視の傾向につながるかを訴えています。

網野さんが、長野県泰阜村の診療所で働いていた頃、村は熱心ながん検診に取り組んでいました。しかし、網野医師が1989年に集団検診を廃止し、受けたい人だけが病院で受ける個人検診にした結果、老人医療費が減り、その分、訪問看護や在宅医療など福祉に重点を置くことができました。村民は、手厚い看護や介護を自宅で受けられるようになったのです。

『なぜ、村は集団検診をやめたか』/網野皓之 より

## 【読者の声】

放射線のリスクについて、ホントに鈍感ですよ、日本に暮らしていると。今、わが犬が膝の靭帯を痛め、障がいが残ってしまうようだとされていますが、獣医さんは、レントゲンを撮らずに触診だけで判断しました。しかし、人間様になると、受診したら医者に会う前に「レントゲン撮ってきて」ですからね。安易にレントゲン等使い過ぎ！医療保険の負の側面かな、過剰診療は。「乳がん検診も触診でわかる範囲で良い、インフルエンザも罹っても良い、少くらしい虫歯になるリスクを負っても良い……」くらいに太っ腹(だらしな)の市民でいたいものです。が、今度、子どもが行く大学はMRの予防接種をしてないと入学しにくい雰囲気なことが入学案内に書かれてありました。 小樽市Mさん